県解体工事業協組安全パト

重機の接触防止を

県解体工事業協同組合（新留司理事長）は5日、鹿児島市上福元町の解体工事現場で18年度安全パトロールを実施した。参加した組合役員9人は、労働災害の絶滅に向け、さらなる安全管理の徹底を呼び掛けた。

今回は、「農業試験場解体（県鹿児島土木事務所発注）」の4工区（南生建設㈱）、6工区（㈱三純建設）、12工区（こうかき建設㈱）の3カ所を巡視。現場の解体状況をはじめ、現場事務所周辺や重機等を入念に点検した。

各診断員は、現場代理人に対し「重点事項を中心に良く管理されている。今後も、重機の接触防止等に気をつけ、万全な体制で作業にあたってほしい」などと、さらなる安全管理の徹底を促した。

入念に点検する診断員
＝鹿児島市上福元町の現場で

鹿児島再資源化研究所を開設

廃ガラスをリサイクル

西日本興産

西日本興産㈱（東別府錠二社長、薩摩川内市）は、㈱日本再資源化研究所製造の廃ガラスびん再資源化プラントを導入。4日、同市久見崎町の現地で森卓郎市長はじめ開発・製造元、自治体関係者らを迎え鹿児島再資源化研究所（廃ガラスびんリサイクル工場）の開所式を開いた。

東別府社長は開設の経緯について説明。「廃棄物処分場の残余容量が限られる中、当地域に根差した拠点施設になるよう期待する」と歓迎した。

森市長は「廃棄物の抑制と再資源化の促進は循環型社会の構築にとって喫緊（きっきん）の課題。本市は18年度を初年度にごみ処理基本計画を策定したところであり、ガラスリサイクルの新たな取り組みは大変意義深い。地ぬと循環型社会の構築に寄与できるものと確信する」と挨拶。

同プラントは、廃ガラスびんを粉砕してエッジレスのガラスカレットやパウダー状カレット、ガラス玉等に加工。また800～1000℃の焼成炉で熱加工して多機能ガラス発泡体・製品名「NEXTONE－α（ネクストワン・アルファ）」を製造する。

製品は強固な珪酸質の壁でできた多孔質の発泡体で、絶乾比重は0・3～1・1程度。透水性や保水性にも優盛土木資材はじめ水質浄化、屋上緑化資材、藻礁・漁礁資材等に。原材料は壁材やブロック、高機能舗装材等に活用され、使用実績も豊富。

既に全国17カ所のネットワークが構築され、九州では熊本に次いで2番目。県内では初の施設になる。製造は日本容器包装協会等の委託で行う。

式では同プラント製造元の岡本豊之㈱トヨシステムプラント社長の挨拶や製造工程等の説明があった。小原一美西日本興産㈱専務が閉会の挨拶で出席者に理解を求めた。

開所式のテープカットに臨む森市長（右）はじめ関係者

子供たちを守ろう「あいらっ子110番」

23社がノボリ旗製作

姶良町建設業協会

地域の子供たちを守ろうーと、姶良町建設業協会（橋口一二三会長、23社）は子供たちの駆け込み場所となるべく「あいらっ子110番」と書かれたノボリ旗などを製作。5日、姶良町の城光寺俊和町長、堀内清實助役に報告に訪れた。

今回の取り組みは、地域の子供を守ることはもとより、建設業のイメージアップを図ろうと、事務所前にノボリ旗、事務所・車にステッカーの3点を作った。デザインは、緑・黄色・白と目立つように製作、「あいらっ子110番」の文字の下には姶良町職員が製作したイラストを入れ込んだ、協会独自のものとなっている。

当日は、姶良町役場町長室に橋口会長をはじめ、若松秀房副会長、岩井田勝人事務局の3人が城光寺町長と堀内助役に製作したノボリ旗などを前に製作までの経過や目的、効果などを報告。

城光寺町長は「素晴らしい活動。地域と一体となったこのような活動は住民の一人として助かります。今後も力を貸してください」と話した。

写真に納まる城光寺町長（中央）、橋口会長ら＝姶良町役場町長室で

県建設業青年部会ボウリング大会

川内支部が団体優勝

県建設業青年部会（川畑勇一郎会長）は1日、鹿児島市の国際ボウルで第12回ボウリング大会を開いた。会員約170人が参加し、熱戦を繰り広げた結果、個人の部で繁昌誠吾さん（㈱繁昌建設・鹿屋支部）、団体支部がそれぞれ優勝した。

会場では、ストライクやスペアが決まると大きな歓声が上がるなど、終始和やかな雰囲気の中でプレーを楽しんだ。なおゲーム終了後は、表彰式や懇親会が行われ、会員らは親睦を深めていた。

成績は次の通り。

【団体の部】優勝＝川内支部▽準優勝＝曽於支部▽3位＝南鹿児島支部

【個人の部】優勝＝繁昌誠吾▽準優勝＝内村真悟（有）内村産業・南鹿児島支部）▽3位＝山下文人（㈱二渡建設・宮之城支部）

和やかな雰囲気の中でプレーする会員＝鹿

県法面保護工事業協組忘年会

1年の労ねぎらう

県法面保護工事業協同組合（精冨三丸理事長）は4日、鹿児島市の鹿児島東急インで忘年会を開いた。会員ら約40人が出席し、今年1年の労をねぎらった。

初めに精理事長が「今年は、北薩豪雨災害でボランティア活動に尽力し、地域の方々に喜ばれました。また組合においても一つのことに向かって一致団結し、最後までやり遂げることができたことは、暗いニュースが多い中で、明るい話題となりました。こうした活動が次世代にも受け継がれ、組合が繁栄していくよう期待しています」と挨拶した。

このあと、県中小企業団体中央会連携支援課の有馬邦春上席指導監が乾杯の音頭を取り、宴ではバンド演奏が流れる中、会員らは杯を酌み交わし、歓談していた。

活動が次世代にも受け継がれるよう期待する――と挨拶する精理事長＝鹿児島市の鹿児島東急インで

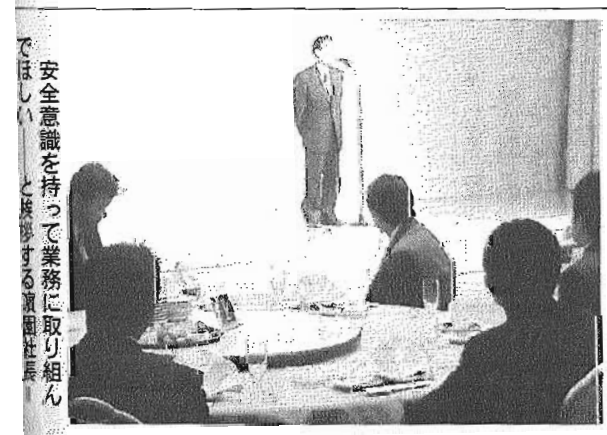
ハマテックス忘年会

さらなる飛躍を誓う

㈱ハマテックス（濵園賢三社長）は1日、鹿児島市の城山観光ホテルで忘年会を開き、社員や協力会社など約50人が出席し、今年1年の労をねぎらうとともに、さらなる飛躍を誓った。

冒頭、濵園社長が「業界では技能士の育成が大きな課題になっていることから、わが社も一人でも多くの技能士を育成しなければならないと考えています。本社2階にある実習場を活用し、資格取得に向けた取り組みを積極的に進めてほしい。今年も残すところ1カ月、何かと慌ただしい時期になりました。自分の身は自分で守るといった安全意識をしっかり持って業務に取り組んでほしい」などと挨拶。

続いて、㈱川崎塗料の川崎眞俊会長の乾杯の音頭で祝宴に移り、終始和やかな雰囲気の中、杯を酌み交わしながら今年1年間の労をねぎらった。また、各テーブルでは現場での苦労話や思い出話で盛り上がっていた。



安全意識を持って業務に取り組んでほしい――と挨拶する濵園社長

お手軽で便利な
購読料のお支払いは
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ